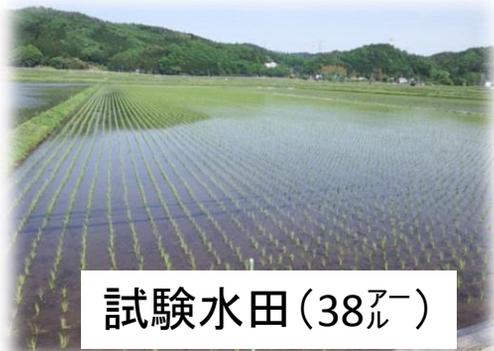


# 水田におけるタモロコ増殖試験結果

栃木県水産試験場

## 目的と方法

- 水田の魚類増殖場としての利用可能性を検証



試験水田 (38アール)

水田にタモロコ親魚を放流した場合

- 親魚の産卵環境は？
- 稚魚の生産状況は？
- 親魚の回収率と成長は？

<6月上旬に放流>

タモロコ親魚  
**122尾**放流  
(10アールあたり約**30尾**)

約1ヶ月後に回収  
(水位を10cm前後に維持)



<7月中・下旬に回収>



注水口と排水口にウケを  
かけて回収

## 結果

- 親魚の産卵環境

稲, 陸生植物の根や葉に産卵(6月下旬から7月上旬に確認)



植物の根



植物の葉



稲の茎

## ●稚魚の回収

**285尾**(全長5—39mm)の孵化時期の異なる稚魚を回収

→ 親魚数の約**2.3**倍に相当



タモロコ稚魚

●水田内に水草が繁殖したため、稚魚の流下を阻害



より多くの稚魚を回収するためには、  
●通水障害物の除去や魚の通り道(溝)の造成が必要と考えられる

## ●親魚の回収率

**100%** ……122尾(10区あたり約30尾)放流し、すべて回収



タモロコ親魚



★ドジョウの親や稚魚も数百尾回収

## ●親魚の成長

全長約**1.4**倍、重さ約**3.2**倍に成長

●ミジンコ類 **豊富**  
●カゲロウ類

放流前

回収時

全長 平均**56** mm

全長 平均**77** mm

体重 平均**2.0** g

体重 平均**6.4** g

水田に魚類を放流することにより、水田がもつ生産力のみで魚類の成長や繁殖および増殖を図ることが可能である